

「2018年度第1四半期決算」テレフォンカンファレンス

主な質疑応答

1. 通期営業利益見通しに対する第1四半期の進捗ならびに、利益バッファ110億円に対する考え方は？

- ・ 第1四半期の営業利益は想定していた水準であり、バッファの取り崩しは行なっておらず、依然として、営業利益の通期見通しに織り込まれている。
- ・ 各セグメントの概要は以下のとおり。
  - ① 資源・エネルギー・環境
    - ・ 北米で進行中のプロセスプラント案件の工事進捗率は71%であり、コストの変動は無い。No.1トレインの引き渡し時期を3か月後にすることでお客さまと合意。それに伴う費用は前年度決算に織り込み済みであり、当期決算への影響は無い。
  - ② 社会基盤・海洋
    - ・ シールドシステム事業の前年同期に計上された好採算案件の反動と、交通システムの赤字案件が主な要因で、第1四半期の営業利益は前年比で減少しているが、第2四半期以降はこれらの要因は解消される。
  - ③ 産業システム・汎用機械
    - ・ 前年同期における車両過給機事業の業績への決算報告期間統一による影響が大きく、この影響を除くと前年同期を上回る利益水準であり、通期見通しに対する進捗度合いも想定どおり。
  - ④ 航空・宇宙・防衛
    - ・ 新型エンジンPW1100G-JMの販売台数増加およびその他エンジン全般のメンテナンスプログラムに関する費用発生の前倒しにより、前年同期比で減益となっている。後者については、第2四半期以降平準化されてくると見込んでおり、さらに、前年度計上した初期的不具合への対応費用の反動が第2四半期以降顕在化してくることから、全体的には通期見通しに沿った進捗である。

2. ジャパン マリンユナイテッド株式会社が建造中のLNG船の進捗状況は？

- ・ 海上試運転を行なっている段階の第1船が、間もなく引き渡される予定。前期末以降、想定したコストの範囲内で工事が進捗しており、習熟効果が見込まれる第2船以降は、コストが大きく変動することはないだろう。

3. 過年度法人税等として計上されている追徴税▲43億円は当初業績予想に織り込まれていたのか？

- ・ 当初業績予想を公表する時期に、本件に関する調査が最終盤に入っている状況だったので、概算金額として業績予想数値に織り込んでおり、第1四半期に納付した追徴税額はその概算金額内に収まっている。
- ・ 今後、処分の全部取り消しを求めて、法令に則り必要な措置を講じていく予定だが、結論が出るまでには今後数年を要する見込みである。したがって、その効果については、業績予想数値に織り込んでいない。

4. 受注工事損失引当金のセグメント別の繰入・取崩・残高は？

- ・ 下表のとおり。(億円未満は切り捨て)

単位:億円

	2018.3 月末 残高	2018.1Q		2018.6 月末 残高
		繰入	取崩	
資源・エネルギー・環境	215	12	39	189
社会基盤・海洋	41	7	5	42
産業システム・汎用機械	6	0	1	4
航空・宇宙・防衛	5	0	4	0
その他	4	1	3	2
計	272	20	53	240

以上